政治分析１１

政治改革と政治主導

* 小選挙区制、議院内閣制、政党規律
* 小選挙区制と党首の重要性
* 首相のスタッフの増強
* 官邸主導型と多数決型民主主義への移行？
* 政策の変化？個別利益から普遍主義へ？
* 政官関係へ

官邸主導への道

* 政治主導論と政治改革
  + 政治家主導の政官関係。内閣などの政治家が本人であり、官僚は代理人。
* 首相のスタッフ増強　内閣府強化
* 内閣人事局と公務員幹部人事（２０１４年）

戦後日本の官僚制

* 官僚主導論
  + 「官僚が日本の政策を担っている」
* 日本の遅れた近代化
  + 戦前は政治家により官僚が選ばれなかった（官僚は天皇の官吏）→本人代理人関係になかった。そのため、政治家は官僚の扱い方を知らない。
  + 政治による行政のコントロールの未成熟
* 行政国家化
  + 政府の役割の拡大（福祉国家化）。仕事の量的拡大と質的な高度化。
  + 政治家は選挙で選ばれるだけで専門的知識を持たない。官僚への委任。
  + 政治家と官僚の情報の非対称性。本人代理人関係のアンバランス。
* 規制志向型国家と発展志向型国家
  + 追いつき型近代化と官僚主導
  + アメリカの政治学者：日本の官僚主導は良い？

政治主導論　本人の再評価　官僚はそこまで権力を持っているのか？

* 正当性の転換
  + 日本国憲法体制と国会中心主義
* 政権誠意等との調整
  + 族議員・与党内審査
  + 官僚は予測通りに動く例が数多ある：忖度
* 予測的対応
  + 政策選好の一致
* 活動量と自律性のジレンマ：行政国家と官僚
  + 利害調整機能と政治

合理的選択理論と官僚制

* 大蔵省（現財務省）支配が主張された
* 代理人としての官僚制
* 官僚制批判
  + エージェンシースラック
  + 鉄の三角同盟
  + 追いつき型近代化の終了
* 首相のリーダーシップ強化論

本人代理人関係と政官関係論

* 代理人を使うメリット
  + 専門能力
* 代理人を使う際の課題
  + 官僚の持つ選好と本人の選好の維持
  + 組織を維持、自分の利益追求
  + エージェンシースラック

エージェンシースラックの発生

* 隠された情報（不完備情報）
  + 官僚の政策選好
  + 官僚の能力
* 隠された行動（不完全情報）
  + 政治家が官僚の行動を観察できない
  + モラル・ハザードの発生可能性
* 代理人のコントロールが必要

官僚に対する事前コントロール

* 事前コントロール
  + 能力と政策選好に基づく代理人選出
* 自由任用（Patronage パトロネージ）
  + 政治任用（政策専攻（ideology）を重視して、自分に似たものを選ぶ）
* 資格任用（Merit System メリットシステム）
  + 能力重視と身分保障
  + 政策選好確認が困難、自分と不一致かもしれない
* 政策選好と能力のトレードオフ

官僚に対する事後コントロール

* 官僚行動の観察と統制
  + 警察パトロール型
* 観察の困難さと工夫
  + 火災報知器型
  + シグナルとノイズ

トレードオフ

* 官僚の能力・自発性
  + 官僚に自発的、自主的に能力を発揮してもらわなきゃ。安倍政権の課題。
* 本人によるコントロール
  + 自発性を重んじてしまえば、エージェンシースラック等、本人代理人関係のアンバランスが問題となる。
* トレードオフ
  + 昔は能力・自発性重視だが、今は本人によるコントロールが重視されている。

1. 政治主導論ではどのようなことが言われていますか？
   1. 政治主導論は官僚主導論と対立する政治理論であり、政治の実権は政治家が握っており、政治家が官僚に対して大きな影響力を及ぼしているとする。日本国憲法の制定により官僚は天皇の臣下ではなくなり、国会や政府に責任を負うことになっている。政治家が官僚を選び、官僚に仕事を委ねているので、政治家と官僚は本人・代理人関係にある。また、鉄の三角同盟の形成により、官僚が利害の調整で政治家に協力することが指摘されている。さらに、本人である政治家と政策選好が似ている官僚が代理人として選ばれるので、官僚が政治家に好まれるような行動（予測的対応）をとる習性がある。  
      行政の仕事が増えると多くの利害が生まれ、政治家の活動量が増える。そうすると利害調整の必要が高まり、官僚が幅を利かせにくくなる。また、官僚の業務が細分化されると
2. 火災報知器監視とは何ですか？
   1. 政治家が官僚を監視するにあたり、パトロール型のように常に官僚の行動を細かく監視すると巨額のコストがかかってしまう。そのため、低コストで官僚を監視するために、官僚の逸脱行為が発覚した後に事後処理をしていくのが火災報知器型監視である。これには、
   * [有権者](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%89%E6%A8%A9%E8%80%85)や[利益団体](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%A9%E7%9B%8A%E5%9B%A3%E4%BD%93)からの[陳情](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B3%E6%83%85)から、官僚の逸脱行為を把握する。
   * 将来、与党議員へ転身することを考えている官僚に、自分の省庁の逸脱行為を密告させる。
   * 省庁間の競争関係を利用して、ある省庁の逸脱行為に関する情報を他の省庁から入手する。

（<https://ja.wikipedia.org/wiki/プリンシパル＝エージェント理論> ウィキペディアより引用）

などの方法がある。この際、官僚が逸脱行為を行なっていないのに政治家にその節の報告が行くというようなノイズが発生する可能性があり、正当なシグナルとノイズの分別が重要である。

1. 官僚にやる気を持たせながら、エージェンシースラックを小さくする方法は？
   1. 将来、与党議員へ転身することを考えている官僚に、自分の省庁の逸脱行為を密告させ、その密告行為に報酬を与える。これによって、省庁内でお互いにチェックしてエージェンシースラックを防止するインセンティブを作る。